

きほく
鬼北町

議会だより



目次

- P 2 発行にあたって
- P 3 鬼北町議会体制
- P 4～ 委員会とは
- P 6～ 議員の窓
- P16 研修報告
- P17 常任委員会合同行政視察
- P18 北宇和高校生との懇談会
- P19 議会活動報告
- P20 全国表彰、編集後記 ほか

第1号
令和2年3月

発刊にあたって

鬼北町議会議長 渡邊眞次

この度、鬼北町議会では、議会広報誌「鬼北町議会だより」を発刊することになりました。これは、議会や議員がどのような活動をしているかを広く知っていただくことが議会制民主主義の基になっていることを認識し、その必要性と全国の状況を見聞きされた程内閣前議長の思いで始まったものです。

平成29年度から先進地視察を行うなど準備を重ね、昨年、広報委員会（芝照雄委員長）を立ち上げました。各種記事は広報委員が、「議員の窓」は議員個人が本人の責任において自由に書いたもので

す。

こうして、発刊出来ました「鬼北町議会だより」を皆様のもとにお届けできましたことは議員一同無上の喜びであります。その内容については、まだまだ未熟な点もあろうかと思いますが、「まずは始めよう」を合言葉に取り組んで参りましたので、今後の成長をお楽しみいただければ幸いです。そして、「鬼北町議会だより」が議員や住民の皆様との絆を深め、末永く愛されることを期待してやみません。

最後になりましたが、ご多忙中、視察を快くお受けいただきました先進地議会の皆様、議員各位、広報委員会、その他ご指導・ご協力をいただきました皆様にご心から感謝申し上げます、発刊の挨拶とさせていただきます。



鬼北町議会体制

令和元年の鬼北町議会の体制は次のとおりです。



渡邊眞次 議長

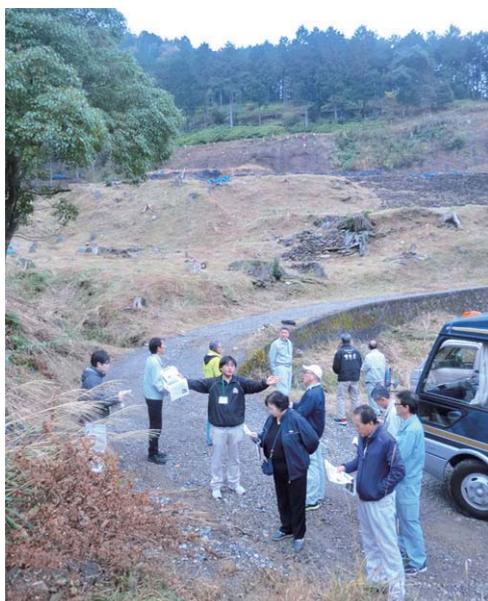


福原良夫 副議長

委員会

総務産業建設 常任委員会	厚生文教 常任委員会	予算常任委員会		議会運営委員会
◎ 赤松俊二	◎ 末廣 啓	◎ 程内 覺	松下純次	◎ 芝 照雄
○ 福原良夫	○ 高橋聖子	○ 山本博士	芝 照雄	○ 程内 覺
松下純次	中山定則	高橋聖子	福原良夫	末廣 啓
程内 覺	山本博士	中山定則	松浦 司	赤松俊二
山崎 保	芝 照雄	末廣 啓	山崎 保	松浦 司
渡邊眞次	松浦 司	赤松俊二	渡邊眞次	山崎 保

◎は委員長、○は副委員長



等妙寺旧境内視察

委員会とは

議会で取り扱う案件は多種多様化しており、これを専門的、能率的に審査・調査するために常任委員会を設けています。鬼北町議会には、これまで「総務産業建設」「厚生文教」の2つの常任委員会がありました。令和元年12月議会議定例会で「予算常任委員会」を設置し、現在3つの常任委員会となりました。予算を除く2つの常任委員会は、それぞれ6人の委員で構成されますが、予算常任委員会は全議員12人が委員を務めています。任期はそれぞれ2年です。

総務産業建設では、企画振興課、総務財政課、日吉支所、町民生活課、出納室、農林課、建設課、議会事務局の事務に関する事、厚生文教では、町民生活課、保健介護課、環境保全課、水道課、教育委員会の事務に関する事、予算常任委

員会では予算の事務に関する事を審査します。

これらとは別に、議会を円滑に運営するために議会運営委員会が設置され、会期や議案の取扱いなどについて協議します。また、議会に関する条例や規則に関する事など議長の諮問的役割を担っており、6人の委員で構成され、任期は2年です。



常任委員会報告

平成31年3月に行われた各常任委員会の主な内容を報告します。

総務産業建設常任委員会

問 生活交通路線対策についての今後は。

答 平成30年度の計画策定時に三島地区、愛治地区、近永地区牛野川、出目地区谷喜来の方に対してアンケートを実施したので、その結果により交通弱者対策を講じていく予定。

問 高齢化によって農道、水路などの維持管理ができないので委託できないか。

答 現在、農業公社で一部水路の土砂上げ等を行っているので、農道や水路等の農業施設維持管理、草刈りについて、受託できるように協議したい。

厚生文教常任委員会

問 プレミアム付商品券の関係予算はどのようなになっているのか。

答 事業費および事務費ともに、国の全額補助であり、商品券の販売対象者は、2019年度住民税非課税者で一部を除く者および3歳未満の子が属する世帯の世帯主となっており、商品券の使用期間については、2019年10月から2020年3月までを予定している。

問 診療所のトイレが汚い。改修できないか。

答 なるべく早く改修したい。

問 水道管の耐震化率と今後の耐震化の計画はどのようなになっているのか。

答 町内全ての水道管等の距離について234.48kmで、そのうち耐震適

合のある管が37.88km、耐震化率は16.15%、今後の耐震化については、国の補助を利用して随時更新していきたい。

道路線の廃止・認定

令和元年第3回鬼北町議会定例会で総務産業建設常任委員会に付託されました、「鬼北町道路線の廃止」および「鬼北町道路線の認定」の2件について、9月24日、全委員出席のもと、委員会を開催しました。道路線の廃止・認定は3年に一度行われるものです。

委員会当日現地へ赴き踏査した結果、全路線とも、道幅、延長、道路状況において疑義は無く、審査要件を満たしていると全委員が認めました。この結果を第3回鬼北町議会定例会最終日に報告し承認されました。

なお、今回の対象となった路線は次の

とおりです。

廃止…不堂田線（沢松） 認定延長を伸ばすための廃止

認定…奈良中野川線（奈良）、神田支線（永野市）、神田舟木線（永野市）、重ヶ森工場前線（永野市）、弓滝支線（清延）、不堂田線（沢松）、神久保支線（父野川中）、白江線（父野川上）



議員の窓

幼児教育の将来



高橋聖子

令和元年新しい時代とともに1期目の任期も折り返し地点を迎えました。鬼北町議会の女性議員として、私は女性、母、家庭人の視線を心掛けています。

令和元年第3回鬼北町議会定例会では、10月1日から実施される保育料の無償化について質問しました。新制度では、0〜2歳児について所得制限があるが、

鬼北町ではすでに多子世帯対象に所得制限のない保育料の減免制度があり、新制度のもとでも、制度は継続されるとの回答がありました。また、町内に住民票があり、町外の保育所・幼稚園に通う幼児についての質問に対し、保育所で7人、幼稚園で10人通園しているとの回答でした。

そして、広域保育負担金、広域保育委託料、広域教育負担金に関して、これまでに公立の保育所等に広域保育を依頼する場合、受入市町村に支払う負担金は、公定価格から保護者が徴収される保育料を差し引いた額であったが、無償化により保護者から保育料が徴収されないため、10月以降は公定価格どおりの額を支払うこととなる。また、私立の保育所、幼稚園等において、現在の利用料の保護者負担金以外は、国が2分の1、県が4分の1、町が4分の1の割合で負担している。今回の無償化に伴い、保護者負担金分もその割合で負担することになるとの回答

でした。そして、今後の方針として、町長から「これほど急激に進む少子化、全国で展開されている子育て支援対策について、それぞれの市町に合った支援をしている状況の中で、鬼北町ではこれまでの児童福祉、措置のみならず、教育の分野にも力を注いでいかなければならないと思っている。そのためにも、保育士の人数等、現状を維持しながら、認定こども園の設置は難しいかもしれないが、できるだけ早く保育所、認定こども園を含めた教育の再構築を図りたい。」と回答がありました。

これからも、鬼北町の未来を担う子どもたちが健やかに育つよう力を尽くしたいと思います。



第二次鬼北町長期総合計画について



中山定則

鬼北町は、平成28年度から令和7年度までの第二次鬼北町長期総合計画を策定しています。この計画は、行政運営の長期的指針となるもので、鬼北町の将来のまちづくりの理念を示すとともに、各行政分野の施策等について、体系化したものです。具体的な事業は、平成28年度から令和2年度の前期基本計画で示されています。この前期基本計画により、町長は、各年度当初に施政方針を定め予算編

成を行い、議会での予算審議を経て議決されて確定し執行されます。年度終了後、決算認定において、主要施策の成果説明書として、「主要な施策」が議会に提出されています。

前期基本計画は、それぞれの施策項目について、平成26年度実績に対して、令和2年度目標値を数値化し示しています。令和2年度が前期基本計画終了年度となります。令和3年度からの後期基本計画は、社会動向を勘案した見直しを行うことになっています。

後期基本計画の策定に当たっては、前期基本計画にある推進施策に基づく施策方針の各項目について、どのような取り組みを行い、どのような成果を上げることができたのかを十分検証し、各基本目標に推進施策の現状と課題が、この5年間でどう変化したか十分に議論し、令和2年度の現状と課題を明らかにすることが必要だと思えます。前期計画の策定に準じて後期計画を策定するのであれば、

検証結果で施策方針の追加削除、施策方針の成果指標の項目の追加削除、目標値の変更についても検討することが必要だと思えます。なお、実行性を確保するため、中期行財政計画との調整を十分に行うことが求められます。

また、長期総合計画の進捗度について、広報、町ホームページトップ画面に載せるなどして、町は住民への説明責任を果たしていただきたいと思えます。



一般質問「町営バス循環線の運行状況」について



末廣 啓

問 試験運行期間中の利用者は1日何人だったか。

答 1日8便、スーパーや病院など16駅の停車駅を設け、1便当たりの運行時間約54分で、49日間運行したが、乗車人数は1日当たり平均5人であった。

問 本格運行になってからの状況はどうか。

答 本格運行は5月13日から実施している。5月31日現在で、1日当たりの平均乗車人数は8人である。

問 8人という数字は想定内か。

答 循環線導入に当たって、アンケートを実施した折には、たくさんの人から「あれば利用したい」「必要である」等の回答を得たので、回覧・防災無線等も活用し、周知徹底させて利用率を上げていきたい。

問 今現在の停車駅で、乗降率の高い駅はどこか。

答 北宇和病院を発着点としており、約5割の方が乗降されている。他はフジ、しんばし、JR出目駅も多い状況である。

問 1日で一番多く乗降された人数は。

答 試験運行時は19名。本格運行においては、15名の方が利用されている。

問 料金設定について、乗降するたびに100円必要で、高いとの住民の声があるが。

答 距離により運賃の差額を設ける場合には、整理券を発行して、区間ごとに運賃表示をするシステムを導入する経費が必要なことや、つり銭の支払い等利用者と運転者に煩雑になると考えられることから、1回乗車ごとに100円の定額運賃で運行していきたい。

問 定期券や回数券を発行する考えはないか。

答 検討する余地は十分あるかどうかと思うが、もう少し時間を置きたい。



つながり



山本博士

今回、鬼北町議会におきまして「議会議だより」を発刊することとなり、町民の皆様の声に耳を傾け、さまざまなお意見を「議会だより」に紹介していければと考えております。

今回は私が暮しております今在家地区のすばらしい出来事をご紹介いたします。今在家地区には、地区住民の拠り所とする天神様があり、一年に一度ではあります。お春祭りを行って、住民が集う場所となっております。その日室天神

が老朽化し建て替えることとなり、区長さんには大変なご苦勞をおかけすることになりましたが、地元の大工さんをお願いし完成することが出来ました。それだけではなく、区長さんの声掛けで、取り壊しから、基礎工事、防腐剤塗り、棟上げまで、地区住民で行いました。地区住民の深いつながりとパワーを感じた次第です。

これから来るであろう超高齢社会。ゴミも出せない現実。元気な方などが買い物、ゴミ出し、通院時の補助など、協力できるのではないかと考えます。今回の日室天神の建て替えをすることにより、



地区住民で協力すれば何事もできると確信いたしました。我が地区にも、高齢者夫婦、一人暮らしの方々がおられます。その

方々の補助を地区住民が協力していければ、さらに良い地域づくりができるのではないかと考えております。

議会だよりを通じ、議会活動はもちろん、各地区の取り組み活動なども紹介していければと思っております。各地区におじゃますることとなりますが、皆様のご協力よろしくお願いいたします。

町内への人材確保の方策について



赤松俊二

現在、日本は高齢化社会を迎えており、総務省の労働力調査年報によると、2016年の労働力人口は6648万人でしたが、50年後には3946万人と4割程度減少する見通しになっています。都市部の大手企業では、国内の労働力だけではならず、外国人労働者を多く受け入れるなどの人材確保が激化しており、鬼北町を含む地方は都市部への一極集中を背景に若者の労働力不足が顕著に現れています。そこで、各地方公共団体は人材の受入体制を充実させており、当町も遅れをとることなく、人材確保に努めなければなりません。

当町では、町内の企業を知ってもらい、将来の就職先を決める一つの手掛かりにしておくと、地元の高校で企業説明会を行うなど、地元に着する若者を増やし、若い労働力の流失に歯止めをかけようと努力して今は、「進路を決める上で参考になった」という声をたくさんいただいていると聞き、生徒の皆さん

にとって、「地元について考える貴重な時間」となったのではないかと思っております。

その一方で、鬼北町の企業に興味を持つている人に対しては、当町の企業情報の発信、企業体験や見学等の機会をもっと増やしていき、労働力確保のために官民一体となって受入体制を作らないといけないと考えています。

当町のような自然に囲まれた町は、全国各地に目を向けてみればたくさんある



ことでしょう。まずは、その中から我が町に興味を抱いていただき、町内企業に就職したいと思ってもらうことが大切であります。

そこで、町内には現在、使用されていない町営住宅等が点在しています。その空き住宅を企業体験等に来られた方々への一時的な滞在スペースとして確保し、いつでも受け入れ可能な体制を整えることが、他市町と比べたときに大きく異なる最大の利点になるのではないのでしょうか。遠方から鬼北町への往復に要する費用はかさむことでしょうか。さらに、その間の宿泊代が重なる、「鬼北町で企業体験をしてみたい」という思いがあってもなかなか実行に至らないのが現実だと思えます。町内企業の体験等に町営住宅等を利用して宿泊代を賄うことで、鬼北町へ就職を考える人に一つの足掛かりとなつてほしいと考えています。そして、その先「鬼北町への定住」とつながればと思います。

南予地方の文化「闘牛」



松下純次

宇和島観光闘牛は、以前では100頭近くで運営されていたが、現在では約30頭と激減している状況にある。

当地域の貴重な文化であり、観光産業の目玉的な存在である「闘牛」が衰退することは大変な問題だと考え、各方面に協力をお願いしてきた。

そうした中で、東京在住の某オーナー様より「里親制度により闘牛を飼育してくれないか」との依頼をいただき、現在5頭の闘牛を飼育している。

このように、地域外の方々に更なる協



力をお願いすることで、あと10頭程度増やしていきたいと思っっている。そうすることで、3、4人程度の雇用も確保できるかと思われる。

このような対策を講じて、是が非でも伝統を継承したい所存である。

町政を問う「空き家住宅の撤去について」



芝 照雄

問 空き家住宅の撤去について、8割補助で2割が個人負担、上限で80万円補助されるが、限られた坪数の家しか壊すことができないと思われ、100万円、200万円、300万円とかかった場合でも上限の80万円しか出ないのか。

答 個人の財産は個人が管理するものだという町民の方々の気持ちを考えると、200万円、300万円と増

やした時、施策としての効果はあると思うが、税金を投入して、新たな財産の形成が安易にできると思われることも一部では取り沙汰されるのではないかと危惧している。現在は100万円の補助事業だが、ある程度ご理解いただいていると思う。問題点の大小については、十分把握している。

つぶやき

（小倉秋まつり）

毎年、地元の秋祭りに参加しておりますが、年々参加者も少なくなり、少し寂しい気持ちです。

子どもたちも少なくなり、五つ鹿踊り、四つ太鼓がありました。4年前に五つ鹿踊りがなくなり、今は四つ太鼓の存続が危ういみたいです。少しでも長く、伝統を絶やさないうよう、住民の皆さんと一緒に頑張りたいものです。



議員活動



福原良夫

今回は、宇和島地区広域事務組合宇和島消防本部にお邪魔をし、いろいろとお

話しを伺いました。説明していただいたのは、副署長、総務課長、救助隊長の3人でした。

宇和島消防署は、消防本部と消防署で136名が、2交代制24時間の勤務で、管内住民の安全、安心を守っています。女性消防士は1人おられ、同じ勤務だそうです。

今年度は、はしご車が25年を経過し老朽化が著しいために更新したそうです。もう1台は、救助工作車ですが、これも配備後15年を経過し老朽化が著しいために更新するそうです。また、消防本部、各消防署も築40年が経過しており、建て替えも検討する段階ではないかと思えます。

新しいタイプのはしご車



今までのほしご車にない新しい装備として、伸縮水路管、スーパージンポーズカメラ、リモートコントロール、照明装備、バスケット担架取付装備、バスケットとりフターの同時使用、感電防止装置等を備えています。斜め下方向にも伸梯できる先端部が屈折するため、障害物回避能力の向上につながるとともに、バスケットへの乗り移りが容易で、屋上フェンスを回避しての架梯が可能になります。災害現場に到着してから2分ぐらいで作業が可能で、ほしごを35mまで伸ばすのに30秒ぐらい、ほしご車1台の価格は2億2997万8千円だそうです。

牛鬼の由来（消防年報より）



牛鬼は、愛媛県宇和島地方の風土にとけ込んだ祭りの代表的な練り物

である。もともと恐ろしいものの代名詞であったようであるが、この恐ろしい性

格を逆手にとって、「悪魔ばらい」として登場させたのが、この牛鬼だと言われている。牛鬼の面は恐ろしげな鬼面で、赤または緑に塗られ、口はカッと大きく豪快に開くようにつくられている。その牛鬼の面を消防本部のシンボルマークとして独自にデザイン化したものである。

議会活動報告



程内 覚

是々非々をモットーとして日々活動しています。そういった中で、平成29年5月から令和元年5月までの2年間議員各

位の協力のもと、議長職に就かせていただきました。また、その間、考えてもいなかった巡り合わせにより、愛媛県町村議会議長会会長、四国地区町村議会議長会会長、全国町村議会議員共済会副会長、全国町村議会議長会理事としての要職を務めることができる幸運にも恵まれました。

就任当初は大変な職ゆえに任が果たせるのか不安でしたが、芝副議長、事務局職員はじめ、各位の協力のもと、大過なく任期を満了することができ安堵しているところです。東京にあります全国町村議員会館にも頻繁に足を運び、総務省はじめ各省庁、首相官邸にての陳情も叶いました。紅白歌合戦が行われるNHKホールでは全国町村議会議長が集う中、決議文朗読の機会にも恵まれ、思い出深い行事となりました。全国の各県議長会会長との絆もでき、これ以上の冥利はありません。

全国各地への研修にも参加させていた



いただきましたが、中でも福島県や宮城県での被災地研修では、まだまだ復興道半ばの状況を地元町長の説明を受けながら視察し、自然災害の脅威を肌で感じました。温暖化の影響なのか、いつ何処で起きるか分からない災害には、空振りになってもいい早めの避難が一番であることを学んだ次第です。

少子高齢化が進む当町ですが、町の活性化、住民福祉向上のため、努力していく所存です。

鬼北町発展のために



松浦 司

去る、平成31年2月6日に長年の議員活動が認められ、全国町村議会議長会より「自治功労者表彰」の栄に浴しました。振り返ると、平成15年4月より広見町、鬼北町の議会へ席を置かせていただいておりますが、16年間は長いようで短く感じております。その間には、議会運営委員長、総務常任委員長、議長、監査委員の職に就き、尊い経験をさせていただきました。特に、平成の大合併では苦難の

連続でしたが、指定期日までの合意ができ、関係者各位に感謝の気持ちでいっぱいです。「旧広見町・旧日吉村」の発展を願っております。

愛治地区では、鬼北町長へ「町長陳情」を行っております。毎年度初め、愛治自治会の新役員を中心に、地域の問題点を洗い出し協議検討した結果を直接要望しています。

町長をはじめ、関係各課長の出席をいただいて実り多い協議を重ねています。



今後、初心を忘れることなく、地域に寄り添い、微力ではありますが、町の発展、住民福祉の向上に寄与してまいります。

町立学校の児童・生徒数の減少による将来の学校運営について



山崎 保

令和元年第3回定例会において、町長、教育長に一般質問をしたところ、以下の答弁があった。

問 合併後14年が経過した今日、各小
学校、各中学校の状況を捉え今後の
計画を伺う。

答 平成29年度から全小学校でコミュニ
ティスクールおよび地域学校協働
本部事業に取り組み、地域の皆さん

の力をお借りして、学校経営を進めている。その成果として、本年度の全国学力テストの県内市町別平均正答率では小学校が県内トップクラス、中学校が県平均と同等の成果を出している。また、各学校は公民館や老人クラブをはじめとした地域との連携・協働の意識がより一層高まり、地域との一体感が高まってきている。これはまさにこれからの学校が目指す姿「地域密着の学校、地域密着の教育」。それができるのが、小規模校の利点であり、小規模校だからこそできる教育であると考えている。今後においても、地域と協働して、地域とともにある学校づくりを進めるとともに、少人数だからこそできる教育の推進に努め、各学校が互いに良い刺激を与え合い、創意工夫を生かしたオンリーワンの特色ある学校づくりを進めていくことができるよう支援していききたいと考えている。

問 日吉小中学校の義務教育学校開校
について伺う。

答 これまで、議会審議の中で義務教育学校だけを町内の教育事業の重要な柱として説明してきたが、鬼北町の教育行政の将来を見据え、少子化する鬼北町の現状を踏まえた中で、町全体の縦軸の方針を説明していきたい。引き続き、義務教育学校としての開校を目指し、関係条例の改正について、今年度中の議会において提案したいと考えている。



研 修 報 告

愛媛県町村議会議長会創立 70 周年記念議員研修大会

7月25日、愛媛県町村議会議長会主催による研修大会が松山市のメルパルク松山において開催されました。今年は創立70周年という節目の記念大会で、近年の愛媛県町村議会議長会歴代会長10人に感謝状が贈られ、代表して、第53代会長の程内覺前鬼北町議会議長が受領されました。



つづいて、中央大学法科大学院教授で弁護士の野村修也氏から「地方創生、成功の鍵」と題して講演がありました。その主な内容は大きく分けて「愛媛県の地方創生戦略」「役所だけが旗を振っても成功しない」「国家戦略特区を活かす」「中古住宅（空き家など）の利活用」「情報技術革命を活かす」「休眠預金と社会的企業」の6つでした。その中で、役所だけで旗を振っても成功しない。いくら岩盤規制を取り除いても、民間に活

力がなければ無駄である。自助・共助の重要性を先進事例を交えて、熱く語られました。

鬼北町においても、人口減少、少子高齢化が進む中、どうやってこの地域を盛り上げていくのか、自分達の地域で何ができるのか、一人ひとり関心を持つことが大切だと感じました。

第 60 回四国地区町村議会議長会研修会

四国地区町村議会議長会研修会が10月16日徳島市で開催され、四国各地から多くの町村議会議員が参加しました。

はじめに、自治功労者表彰が行われ、講演会に入りました。講演会では「政権の課題とポスト安倍の行方」と題して、政治ジャーナリスト田崎史郎氏から、ポスト安倍は誰だとの予想など、軽妙な語り口で話をされ、受講者は熱心に聞き入っていました。



次の講演は「地方創生のリアル～覚悟はあるのか～」。講師は、四国アイランドリーグ plus 理事長の坂口裕昭氏。四国にプロ野球の独立リーグが誕生して15年、この間の歩みや活動が地域社会の未来に役立つことを訴えられました。

講演を拝聴し、今後の鬼北町の地方創生について考える良い機会となりました。

常任委員会合同行政視察



11月21日から22日にかけて、常任委員会合同行政視察を行いました。視察先は過疎高齢化が進行する中で、過疎がもたらすさまざまな課題に取り組まれている鳥取県日南町を訪ねました。日南町は、中国山地のほぼ中央、広島県、岡山県、島根県の三県に隣接し、面積341km²、人口4524人（2019年9月30日現在）の小さな町です。面積の

88.1%が森林であり、農林業が主な産業という典型的な中山間地域であり、高齢化率も50%を超え、全国でも過疎高齢化が進んでいる自治体の一つです。

視察については、「農林業従事者の育成・確保」「市町村有償運送・過疎地有償運送」「自然の恵みの有効活用」の3つをテーマとしました。その中の「農林業従事者の育成・確保」については、全国から農林業研修生を積極的に募集し、定住者促進に取り組まれていました。農業研修生は3年目で自立を、林業研修生は2年目で町内林業企業への就職を目指しているとのことであり、研修期間中は専任の指導者を配置し年間を通じたカリキュラムを設定して、農林業技術の習得をサポートしているとのことでした。



過疎化の問題は、どこの自治体でも抱える問題です。創造力と責任感を持って過疎問題に取り組むべきであると感じました。日南町は「創造的過疎をテーマにまちづくりに取り組んでいる。成果も大事だが、今取り組んでいることを重視している。」との言葉が印象的であり、視察は非常に有意義なものとなりました。

北宇和高校生との懇談会

鬼北町議会では、議会の活性化と開かれた議会活動を目指し、地域住民の皆さんとの懇談会を開催しようと考え、その前に是非若い皆さんの意見を聞いてみたいと、平成31年3月18日、地元北宇和高校生との懇談会を実施しました。

限られた時間の中で、テーマを決めた懇談ではありませんでしたが、若者との有意義な懇談ができました。この日いただいた意見をすぐに実現することはできませんが、行政側に提言していきたいと思えます。初めての取り組みでしたが、貴重な体験となりました。ご協力いただきました校長先生はじめ諸先生、生徒の皆様へ感謝申し上げます。

なお、高校生から出た主な意見は次のとおりです。



1 鬼北町に定住・Uターンしてもらうための町づくりの提案

- 施設を充実させ利用者を増やし、部活動等の合宿地としてもらう。
- 地元住民への町内既存施設の無料化。
- 職場を増やす。起業しやすい町づくり。
- 大型ショッピング施設の誘致。
- 大学の誘致。
- 子育てしやすい環境作り。



2 鬼北町にあったらいいもの（施設・施策）

- 人工芝グラウンド等運動施設。
- 北宇和高校の寮を作って鬼北町で経営し、全国募集で若者を増やす。

3 選挙権について

- 18歳は早い。
- 理解できていない若者が多いので、もっと選挙の授業をしてほしい。
- 候補者の情報発信が若者向きでない。

4 鬼北町議会に対する要望

- 町民が豊かに生活できるように町を盛り上げること。
- 議会としての情報発信。

5 その他

- ずっと田舎にいるよりも都会に出たほうがいい。
- 子育てで育休が取れるのか、仕事と家庭の両立ができるのか不安。
- 第一次産業しかない、帰って来ても生活ができない。
- 地域のために協力する人を多くできないか。

議 会 活 動 報 告

平成31年1月1日～令和元年12月31日

月 日	会 議 名 等	備 考	
2	1 2	第1回議会運営委員会	
		第1回鬼北町議会臨時会	
	2 7	第2回議会運営委員会	
		第1回全員協議会	
3	6	第1回鬼北町議会定例会（1日目）	
	8	第1回鬼北町議会定例会（2日目）	
		常任委員会正副委員長会	
	1 2	第1回総務産業建設常任委員会	
	1 3	第1回厚生文教常任委員会	
	2 0	常任委員会正副委員長会	
	2 2	第2回全員協議会	
		常任委員会正副委員長会	
	2 5	第3回議会運営委員会	
		第3回全員協議会	
第2回総務産業建設常任委員会			
第1回鬼北町議会定例会（最終日）			
5	8	第4回議会運営委員会	
		第4回全員協議会	
	1 5	第2回鬼北町議会臨時会	
6	6	第5回議会運営委員会	
		第5回全員協議会	
	1 3	第2回鬼北町議会定例会	
7	2 5	愛媛県町村議会議長会創立70周年記念議員研修大会	松山市
8	2 3	広報委員会	
9	1 2	第6回議会運営委員会	
		第6回全員協議会	
	1 8	第3回鬼北町議会定例会（1日目）	
	2 4	第3回総務産業建設常任委員会	町道審査
	2 6	第7回議会運営委員会	
第3回鬼北町議会定例会（2日目）			
1 0	1 6	第60回四国地区町村議会議長会研修会（～17日）	徳島市
	2 5	第7回全員協議会	
1 1	2 1	常任委員会合同行政視察（～22日）	鳥取県日南町
	2 7	第8回全員協議会	
1 2	5	第8回議会運営委員会	
		第9回全員協議会	
	1 2	第4回鬼北町議会定例会（1日目）	
	1 3	第9回議会運営委員会	
		第4回鬼北町議会定例会（2日目）	
2 3	広報委員会		

全国町村議会議長会

優良議会受賞

鬼北町議会は、全国町村議会議長会から、近年の議会活性化や町民懇談会などの自主的な活動が積極的に展開されているとして、令和元年度優良議会に選出され、令和2年2月19日に開催された愛媛県町村議会議長会定期総会において表彰状が伝達授与されました。



これからも、さらなる議会活動の活性化、議会改革の推進を目指して活動してまいりますので、町民の皆様のご指導・ご協力をお願いいたします。

議会を傍聴 しませんか

鬼北町議会の定例会は3月、6月、9月、12月です。町の定時放送で日時をお知らせしていますので、たくさんの方の傍聴をお待ちしています。



編集後記

今回、鬼北町議会として初めて「議会だより」を発行することになり、何から始めたらいのかわからないまま、ゼロからのスタートでした。

今後、町民の皆様には議会活動を理解していただきたく、広報委員全員でより一層わかりやすい紙面を目指して頑張りますので、ご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

最後になりますが、広報委員、議会事務局職員の支えに感謝いたします。

広報委員長 芝 照雄



広報委員会

委員長 芝 照雄
副委員長 末廣 啓
委員 高橋 聖子
委員 程内 覺